

THE RINRI PROJECT:

倫理プロジェクト:

目に見えない存在状態の磁気を反転させる
4年間のテレパシー的な生物圏から精神圏への移行
極をとりまく虹の橋の実験

ホゼ・アグエイアス著

目次

第1部 倫理プロジェクトとは何か

- ◆イントロダクション：世界平和と呼ばれる科学実験-----3
- ◆倫理プロジェクトによって提示される問題の記述と解決策-----4
- ◆実験の解説：目に見えない存在状態の磁気を反転させる-----6
- ◆存在状態の磁気：全体ヴィジョン-----8

第2部 倫理プロジェクトの実践方法

- ◆生物量定数の73色彩：人のホロンと惑星ホロンを調和させる-----11
- ◆4年間のはじめての世界平和と4つのサイバーク・プレートの磁気的な対応-----13
- ◆サイ時間単位は、毎日のキンとは異なる：サイバークを辿る-----15
- ◆テレクトノン・プレイングボードの位置とサイバークのあいだの
塔と立方体の対応-----17
- ◆7つの放射状プラズマ、7つの封印、預言の7年と心のヘプタゴノン-----21
- ◆宇宙光線の植え付け：応用の諸段階-----24
- ◆極をとりまく虹の橋を噴出させる、
サイバークを出現させる、天の栄光をもたらす-----27
- ◆毎日のテレパシー瞑想および視覚化のインストラクションの総括と、道具の一覧-----28
- ◆倫理プロジェクトに関する注釈-----30

付録図版-----31

1. サイバーク・マトリクス
2. 生物量定数の73の年間倍音色彩に従う
3. ツオルキン・グリッド（ツオルキン・テンプレート）
4. 年、サイ・プレート、季節と色の磁気的な対応
5. 位相1「アルファ」：1996-1998年
6. 位相2「オメガ」：1998-2000年
7. 倫理の17箇条とテレクトノン
8. 宇宙光線の植え付けと心のヘプタゴノン

第1部 倫理プロジェクトとは何か

イントロダクション：世界平和と呼ばれる科学 実験

倫理プロジェクトは、この惑星地球上に住んでいるあらゆる人の知性、感情、心、五感を必要とする完全な科学実験である。この実験に惑星上のあらゆる人間存在が参加できるようになるには、普遍的な平和という状況が欠かせない。あらゆる人類種のあいだにこの平和の状況をもたらすことが、「13の月の暦に変える平和の運動」のプログラム、「はじめての世界平和、1996-2000年」の目標であり、狙いとなっている。

「はじめての世界平和」のプログラムは、新しい13：20の時間の情報生物学が、息をのむような短期間で、人類社会のすべてを再組織化できるかどうかにかかっている。この正確な4年間のプログラムを支持し、実証するには、プログラムの進行を監視し、増幅し、そして究極的にはそれと相互作用する必要がある。これが倫理プロジェクトの機能である。倫理プロジェクトは、「はじめての世界平和」と切り離すことができない。もし倫理プロジェクトが失敗すれば、「はじめての世界平和」もまた失敗する。

まず第一に、このプロジェクトは、最低でも2つのチームを必要とする。すなわち、この惑星の北半球にひとつ、南半球にひとつである。だが、この千年紀の終わりまでには、倫理プロジェクトの活動は、バイオプラズマ（原生質）の全体量としての人類の活動と一致するようになっているだろう。この人類のバイオプラズマの融合と倫理プロジェクトの目標の成果は、それを理解するための想像力の飛躍を必要とする。だが、もし私たちが、ちょうど誤った科学が原子爆弾へと導かれたように、正しい科学は聖なる顕現の行為へと導かれることを理解すれば、そのときテレパシー的に活性化された惑星の極をとりまく虹の橋が実現するのも困難なことではないだろう。

極をとりまく虹の橋の誘発は、普遍的なテレパシーと密接な関連を持って進行する。時間において正しい瞬間になされる普遍的なテレパシーの正確な使い方なしには、人類種は次の進化的な発展がみずからの手元にあることを知り得ないばかりか、その事実を体験できない。ここに、生物圏から精神圏への移行を成功裡に完了させる意味がある。人類は次の進化的な状況を、完全な世界平和の体験を通して、巧みに実現するようになる。

倫理プロジェクトの道具は、新しい時間の道具である。時間は実際には情報生物学である。13：20の周波数の中に刻み込まれている基本比とともにある真の時間の目的は、私たちが生命と呼ぶ生物学的な集合体に、知のさまざまな段階を伝えることにある。究極的に真の時間において、必要な知は、時間の中にいることから得られる。これが、知性的な平和の状態である。倫理プロジェクトは真の時間の情報生物学のひとつの機能であるために、

そのすべての側面において、このプロジェクトはこの生物圏から精神圏への移行という適切な瞬間に手に入れることのできる、種全体に行き渡るはっきりとした選択を成就する。同様に、倫理プロジェクトは、原初の統一だけを呼び戻す智恵の進化的な表現にほかならない。

すべての真の科学は、仮説から作業をはじめ。経験的、現象的な試験と、適切な計測機器の使用を通して、科学はその目標を達成する。倫理プロジェクトでの仮説とは、真の、人工的でない時間の中に生きている生物圏のあらゆる生物種にとって、テレパシーが自然なものであることだ。自己反射的な思考と振る舞いの能力を与えられている人類種は、集合的に、ポジティブな惑星秩序との共同創造の際に、自然力を利用することにその意図を焦点化でき、それによって人類みずからの進化に影響を与える。

すべての真の科学は、心に基づく。凝集性を持って形成されうるものが、顕現可能になる。原子爆弾は、もともとひとにぎりの物理学者の信じていた思考形態にすぎなかった。真の科学の法則は、進化的である。真正の科学は、人類種に衝撃を与えることを通して、それみずからの進歩に貢献する。核科学の到来は人類に影響を与えたが、人類の改善に向けられたものではなかった。時間の科学、全体システム科学は、科学と人類の次の進化である。倫理プロジェクトは、普遍的な平和という状態で人類を知性的に統一するための進化的な科学である。

倫理プロジェクトによって提示される問題の記述と解決策

惑星地球には、生物圏——宇宙エネルギーの生命的な変容のための、ダイナミックな生きた編み目、領域——がはっきりと認められる。この惑星の生命維持系（生態系）は、継続的な循環、有限の原子の生物生成的な移住によって特徴づけられる。この継続的な原子レベルの状態変化およびその相互作用は、生物地球化学的な機能とプロセスの複合体における広範な地質学的な時代を生じている。この生物圏における変化とは、自己反射的な思考やその地質学的な衝撃が最高潮に達する現象の出現や、機械の勃興という現象において実現されている指数関数的に集積した構造の複合体のことである。この最高潮に達した、原子の生物生成的な移住の制御不可能な加速の瞬間は、生物地球化学的な燃焼と呼ばれる。

機械は、生物学的に引き起こされた人工的な（12：60の）計時周波数の機能である。機械は、急速なフィードバック・プロセス能力を持っている。これは、あらゆる生命形態と同様に、ますます増大する多様な型の多くの機械の繁殖と増加という結果を生じた。機械は、その外部的な生物学的投影として、同じくらい急速に機械を発生させる人類の繁殖と増加を必要とした。機械は、生物地球化学的な燃焼という状況に貢献する主要な仲介者となった。

ホモ・サピエンス、すなわち機械によって発生した人類種はそれ自身、無意識に不規則で、機械的で、指数関数的に加速された人工的な計時周波数のプロセスに没頭している。その結果、人類は全体として、生物量定数を持つ生物圏の規範からどれほど逸脱したかに気づいていない。生物量定数（生物量の一定不変性）とは、生物圏がみずからの非常に制限された地表空間の中で、その活動力を維持している原理である。

生物圏全体の観点からすると、機械発生的な人類種は、その生物地磁氣的な共振を断交した。生物地磁氣的な共振とは、あらゆる有機体がそれによってみずからを全体性として保っている状態、すなわちそれを維持する媒介者からは見ることでない、生物圏それ自体の状態のことである。ひとつの種としての人類は、みずからと生物圏に、生物地球化学的な燃焼という危機的な状況をもたらした。この生物地球化学的な燃焼それ自体が、資源を消費する機械テクノロジーの必要性によって推進される文明形態において、生物圏に与えられた自己反射的な思考の増大する衝撃の機能である。この生物地球化学的に最高潮に達した段階の総計が、生物圏から精神圏への移行として知られる不可避的な状態を生じさせる。

この生物圏から精神圏への移行が最高潮に達すると、それは新しい地質学的な時代、すなわち「精神生命」の時代を生じる。生物圏では個人が生き残るのではなく、種全体なのである。この精神生命の時代にうまく入り込むことができるかどうかは、機械発生的な種全体で、それ自体が完全に“意識的に”生物圏から精神圏の移行に着手し、それを完了させるかどうかにかかっている。この重大な企ては、サイバーク——基礎となる生物圏内の生命と思考の進化を司る機構——の積極的な出現を引き起こす。サイバークの出現は、精神圏——テレパシー的に統一された惑星の精神場——の到来の合図となる。この精神圏が、新しい地質学的な時代である精神生命の時代を創造する主要因となる。

この実験の本質と当面の目的は、機械発生的な人類種によって引き起こされた生物地球磁氣的な混乱を正すことにある。人類種は、生物圏内のその他すべての生命の総計と共に、生物圏の共振場のひとつの機能である。この生物地球化学的な「生命精神場」の混乱は、惑星の残り二つの共振場、「電磁場」と「重力場」にいまやひどい影響を及ぼしている。ひとつの場、すなわち生命精神場における不協和が指数関数的に増大すると、それは不可避的に残り二つの場に影響を与える。なぜなら、これら三つの場は全体システムの制御ユニットとして、共に機能しているからである。生命精神場の中の混乱は、本質的に生物地磁氣的な性質を持つので、そこに磁氣的な安定化が必要とされる。これは、「人類の磁氣的な再教育」と呼ばれる。

この人類の磁氣的な安定化の本質は、惑星の極磁気の北半球と南半球の区分に応じてまとめられた、二つの組に分かれた人のチームを使って、時間におけるテレパシー実験を通して行なわれる。正しい（13：20）計時周波数に基づく一連のテレパシー訓練を行なうこの実験の目標は、人類種を再極性化し、その適切な生物地磁気機能へと引き戻すことにあ

る。また、そうすることにより、惑星の磁気的な共振場を安定させるようになる。ちょうど4年後に、この実験は注意深く設定されたプロセスを経由したサイバンの到来で、最高潮に達する。そのとき、この惑星の北と南の両極を結びつける虹の橋がテレパシー的に活性化されるという結果を生じる。

実験の説明：見えない存在状態の磁気を反転させる

倫理プロジェクトは4年間にわたるもので、青い自己存在の嵐の年、磁気の月1日（1996年7月26日）から、白い共振の鏡の日にあたる時間をはずした日（2000年7月25日）まで続く。すべての科学実験と同様、この実験は正確に実行に移されなければならない。銀河の時間秩序の中で、新しい暦は最高の調和の表現であり、4年間とは人類が生物圏の活性化を体験するのに必要な最小限の全体周期である。そして同時に、生物圏から精神圏への移行とサイバンの到来を触発する期間でもある。

生物圏から精神圏への移行は、人類が新しい暦に従うにつれて必然的に生じる。新しい暦に従うことでもたらされる精神的な秩序は13：20なので、生物圏の中にあるすべての種の自然なテレパシー秩序、すなわち磁気的な再極性化に必要な社会全体の再組織化プログラムもまた、開示されるサイバン・マトリクス（母体）に応じて意識的かつ巧みに処理されうる。生物圏と精神圏を司る秩序——サイバン——は、テレパシーによってのみ触発されうる。

サイバーク・マトリクスは、4つのプレートないしは膜で構成されている。それぞれのプレートは、それぞれ90度の範囲で、惑星地球の極から極までまたがり、電磁場の放射帯に接触している（※訳注：付録図版1. 「サイバーク・マトリクス」を参照）。それぞれのプレートの活性化は、1太陽軌道ないしは13の月プラス1日の自由の日、すなわち「時間をはずした日」を尺度とする、地球の1公転と一致した形で起こる。

4つのプレートは本質的に極性を持っているので、4年間にわたる4つのプレートそれぞれのテレパシー的な活性化は、正確に2つの部分に分かれた磁極のプロセスの中で起こる。言い換えれば、特定の年の前半の半年、磁気の日1日～共振の日14日は、北半球の磁極がテレパシー的に活性化され、これに対して後半の半年、共振の日15日～宇宙の日28日は、南半球の磁極がテレパシー的に活性化される。自由の日、「時間をはずした日」は、磁気的な平衡と放出（放電、ディスチャージ）の時である。これは、「クラウン（頭頂）を活性化し、ルート（根）を用意する」と呼ばれる（※）。

※訳注：『ドリームスペル』の「人のホロン」では、「色彩配列」の第5の力、すなわち倍音の機能に基づき、「人のホロン」（人の四次元体）を5つのセンターに区分けする。5つのセンターとは、神秘学でいうチャクラのようなものである。

この5つのセンターのうち、頭頂にあたる部分がクラウン（王冠）と呼ばれ、尾てい骨部分にあたる場所がルート（根）と呼ばれる。同様の構造が「惑星ホロン」と呼ばれる惑星地球の四次元体にも存在している。

実際的な両極のテレパシー訓練は、テレトノンと一致した形で毎日のパターンにきちんと従う、両半球の比較的小さな集団で行なわれうる。倫理プロジェクトの成功は、その他残りの人類種もこの実験的な訓練について知っていること、また同時に「4年間のはじめての世界平和」として知られる社会の再組織化プログラムへの参加準備がなされることにかかっている。

この実験がその最終の年に至る頃までに、人類種全体はテレパシー的な両極磁気の再安定化訓練に参加しているだろう。このようにして、世界平和という科学実験は平和裡に完了し、生物圏の中での普遍的な平和という真の秩序が、これ以後、意識的に再び確立される。これが、全面的な戦争の世紀を終える唯一の知性的な方法——超意識的な人類が、完全な平和、普遍的な平和の新しい千年紀へと開かれていくこと——である。

本質的に、このテレパシー実験は、「目に見えない存在状態の磁気」の活性化によって成り立っており、このテレパシー訓練は同時に「目に見えない存在状態の磁気を反転させる」とも呼ばれる。この巨大な磁気は地球の中心で視覚化される。前半の半年は陽極ないし北極に向けられて、それがテレパシー的に活性化され、これに対して陰極ないしは南極がテレパシー・チャージを受動的に受け取る。後半の半年は磁気が反転し、陰極ないしは南極に向けられて、それがテレパシー的に活性化され、これに対して陽極ないしは北極がテレパシー・チャージを受動的に受け取る。磁気のひとつの極を活性化することは、全体性としてのテレパシー場へとそのチャージを脈動させることを意味する。

時間の法則によれば、「はじめての世界平和」を成就する大いなる「目に見えない存在状態の磁気」は、4年間の期間を通して活性化される。それぞれ1年間の流れは二つの部分に分かれており、それぞれの極（北極と南極）に対応する。毎年、磁気は共振の月15日にあたる中間点で極性を切り換える。4年間の流れで、磁気は4つの部分に分かれた色の調波に従う。

前半の2年間、青い嵐と黄色い種は、12 : 60の周波数の極性をなくし、13 : 20の周波数を再極性化する流れを完了する。

後半の2年間、赤い月と白い魔法使いは、13 : 20の周波数の統制規範に応じて人類のテレパシー的な両極磁気の力を純化し、安定させ、放出する。

二つの組になったチームが、毎日、活性化（能動）と受動という両極の段階に応じて、存在状態の磁気イメージの送受信に参加する。このテレパシー的なプロセスは、サイバンク・プレートの開示に正確に時間合わせがなされる。

実際には、テレパシー実験は、二つの日ごとのパターンと同期がとられる。ひとつは、テレトノンのプレイングボードで、28日間あるバイオテレパシー周期の中での位置をしるすこと。もうひとつは、ドリームスペルの「人のホロン」および「惑星ホロン」で、それらは「13の月の暦」の形の中にある生物量定数の73の倍音色彩に応じて、四次元の時間の生物地球化学的な流れを登録している（※訳注：付録図版2. 「生物量定数の73の年間倍音色彩に従う」および第2部以降の実践方法を参照）。

目に見えない存在状態の磁気:全体ヴィジョン

高次の知性の進化へと引っ張りあげる不可抗力がある。この力は、「存在状態の磁気」(the Magnet of Be-ness) と呼ばれている。

存在状態の磁気は、12:60の不協和の中では知ることができない。唯一、13:20の完全な調和の中でのみ、人類はみずから存在状態の磁気で精神的に育むことができる。ひとたび12:60から13:20へと解き放たれると、人類は、惑星地球の北極と南極として体験される、存在状態の磁気の二つの極に結びついた数多くのフィラメントのように、みずからを再編成するようになる。存在状態の磁気によって統一される人類は、地球をテレパシー的な愛の壮麗な波の中に飛び立たせる。

クジラ、鳴き鳥、創造物のあらゆる共同体は、磁気共振の統合を通して時間を受け入れている。これらは、存在状態の磁気に対する無意識の調律である。

いまや人類が、同じことをする時だ。ただし、それを意識的に行なう時だ。これは「目に見えない大学」、すなわち人類の磁気的な再教育をするホームスクールを通して実行される。すべてに浸透する「目に見えない大学」の存在は、存在状態の磁気を四重に反転して、新しい惑星共同体を創造し、それを運営管理する。ホームスクールは、12：60の仕事がもたらす時間を取り除き、それにとって代わる。新しい時間により、12：60の仕事の概念は終止符が打たれる。クジラや鳴き鳥のように、私たちは再び時間を私たち自身の中に組み込むようになる。

存在状態の磁気に関する銀河の伝言を聞いてもらいたい：

「人間たちよ、家庭に戻って、あなたがたの小さな生活を品位と気高さをもって建て直すのだ。あなたの家族関係を修復し、地球を育むことをもう一度学び直すのだ。すべての権利や特権は、地球信託によって与えられる。すべての教育は、PANによって授けられる。新しい知識と、自然の磁気的な再編成を楽しんでほしい。自分の身近な場所をきれいにすること、また自分が清らかになるにつれて変容される事柄を楽しもう。テレパシーの冒険は無敵だ」

ブラジルでの「はじめての生物圏の権利の惑星集会」に引き続き、地球の普遍的な信仰のために、「生物圏の集会」は、「審判の日の勝利における普遍的な平和の計画」を監督する「目に見えない大学」へと溶解した。「目に見えない大学」は教育ネットワークとして、「はじめての世界平和」として知られる「普遍的な計画」を、「4年間のはじめての世界平和」の完了時にあたる栄光の「時間はずした日」（緑の日）、紀元2000年の白い共振の鏡の日まで監督する。

「4年間のはじめての世界平和」における「目に見えない大学」の運営目的は、普遍的な文化の宮廷の中心で、存在状態の磁気を確立することである。普遍的な文化の宮廷とは、「はじめての世界平和」が勤勉にかつ真心込めて実践され応用される、新しい時間の共同体すべてに対して与えられる名称である。PANを通して運営される、磁気的かつ倫理的に人類を再編成する「目に見えない大学の地球カリキュラム」は、人類を精神的な「単一性」へと進展させていく。そうして人類は、地球に対する奉仕を行ないながら、聖なる源泉にこれまでになく近い近づくようになる。

13の月の暦を、青い自己存在の嵐の年、磁気の日1日（グレゴリオ暦：1996年7月26日）までに受け入れることで、人類は時間が統制する「目に見えない大学」に自動的に入学する。「目に見えない大学」は、PANとして、あるいはPANにより運営される生物圏の集会である。「目に見えない大学」は、「地球の再生」と「精神的な統一」という学位を得て卒業へと導かれていく4年間のホームスクール、「進むに連れて覚え、学ぶ」進路であ

る。倫理プロジェクトは、「目に見えない大学」を卒業するいくつかの段階を設定する上級実習プロジェクトである。「目に見えない大学」の卒業は「天の栄光」として知られる。これはすなわち、存在状態の磁気の両極のあいだをつなぐ「極をとりまく虹の橋」として、サイバークの放射が出現することである。

磁気的な再教育のプロセスは、テレトノンとして知られるテレパシー・テクノロジーに応じて、心のシフトを巧みに行なうことによって達成される。その結果、テレトノンは「時間における集合的な夢見の身体を統一するヨガ、すべての存在を同時に解き放つ普遍的な真髄」とも呼ばれる。これは「4年間のはじめての世界平和」のあいだ、次のような生命精神的な流れに従う集合的・惑星的なヨガである。

第1年：「心の平面」の聖なる源泉が獲得される。人類の再極性化。

第2年：「精神の平面」が心の立方体を爆発させて四次元へと広げる。テレパシーが普遍化される。

第3年：「意志の平面」が「銀河のカルマ」と「太陽の預言」という存在の二つの磁気の流れを清める。人類は地磁気的に再編成される。真実の信仰、地球の普遍的な信仰の勝利。

第4年：聖なる源泉が四次元の「心のヘプタゴノン」を現わす。人の心、意志、精神の力が、両極のテレパシー磁気の放出で試験される。極をとりまく虹の橋・サイバークの出現。精神圏が獲得される。

青い銀河の嵐、AD2000年は、集合テレパシー的に統一された人類の卒業パーティである。存在状態の磁気は、愛の聖なる単一性の波を生物圏のあらゆる細胞に向けて送り出す。そうして、第二の創造、地上における普遍的な銀河の信仰が到来する。テレトノンは成就され、存在状態の磁気は聖なる秩序と地球を結びつける。

青い銀河の嵐、AD2000年に、生物圏の集会がその役割を終えるに伴い、PANは聖なる知性が連盟化した銀河文化の秩序として確立され、時間船地球2013、アルクトウルの時間統制の13年間の試運転をはじめの権限が与えられる。

それから時間トンネルが開かれはじめるだろう。人類は、銀河的に連盟化された惑星間公園(パーク)、「地上の天国」の管理者としての権限を受けられるだろう。

願わくば、見えない存在状態の磁気、第5の力の不可抗力により、聖なる審判の指令が広がり、地球が鎮まることを。そして、すべての者の中で聖なる知性が開花し、生物圏が生まれ変わらんことを。

各人はそれぞれに決まった方向をむいて（祈る）だけのこと。
だから（そんなことで、とやかく思い悩んだりせずに）
汝らは互いに競って善行にはげむがよい。
汝らがどんな所におよろうとも、アッラーは（最後の審判の日）
汝らを全部ひとつところに集め給う。
まことアッラーは全能におわします。

『コーラン』 2 : 148（井筒俊彦訳）

第2部 倫理プロジェクトの実践方法

生物量定数の73色彩：人のホロンと惑星ホロンを調和させる

人の心と生物圏を同期させるために、預言の第4年の惑星奉仕のウェイブスペルは、生物量定数を維持する73色彩でカラーコード化されている。生物量定数とは、量の不変性や生物多様性の継続性が維持されるという生物圏の法則である。人が生物量定数を維持する完全な手段は、「生物量定数の73色彩」として知られる、全部で73ある完全な5日単位の連続体を通して実行される。これは「倍音色彩」としても知られる。太陽銀河年と同様に、それぞれの5日単位の連続体は、赤、白、青、黄色でカラーコード化される。この実験の第1年の年は青い嵐の年なので、色彩連続体の1番目（最初）と73番目（最後）は、青である。今年の順番は次のとおりである。

青い嵐———夜	自己発生する豊かさの色彩
黄色い種———星	開花する芸術の色彩
赤い月———空歩く者	浄化する預言の色彩
白い魔法使い——鏡	永遠の瞑想の色彩

それぞれの連続体は、通路の地球家族から信号の地球家族まで続く。これは「惑星ホロン」で、それぞれの色彩行程が南極（通路家族）からはじまり、次に北極（極性家族）に飛び、またこの連続体の最後が常に南半球の温帯（信号家族）で終わることを意味する。

「人のホロン」では、「通路」はルート・センターに対応し、「極性」はクラウンに対応する。あなたは、1日目から2日目にかけてその都度、ルートからクラウンまでの動きがジャンプする形で倍音色彩を調整する。5日目に太陽神経叢から出るとき、この動きを「クシャン・スウム」、すなわちあなたを銀河まで結びつけているエーテル的な糸へと解き放つ。人の心と生物圏が——1年に73回——バイオテレパシー的に調律される際に、これが鍵になる。生物量定数の色彩に従い、あなたの惑星の生物電磁氣的な安定化に参加しよう！

自分の「人のホロン」の精神物理的なセンターを、「惑星ホロン」の対応する位置と結びつけるとき、あなたは世界平和と呼ばれる偉大な科学実験を通して、いま活性化している目に見えない存在状態の磁気の、テレパシー的な対応物を創り出していることになる。毎日、規律正しくこの倍音色彩に従うとき、あなたは地球の電磁気や重力の共振場と同調したあなた自身の生物電磁気を再び安定させている。あなたは自分自身の生物圏細胞を大いなる存在状態の磁気と結びつけているのだ。あなたは、生物圏の細胞化を体験している。あなたは、地球とそこにあるものとすべてとひとつになる精神圏の生物変異の帰結として変異しつつある！

「惑星ホロン・人のホロン」の調律を毎日の実践とすることが、目に見えない存在状態の磁気のバイオテレパシー的な力をまとめあげるにあたっての第1ステップである。

第2ステップは、見えない存在状態の磁気を、サイバンクの4つのプレートを開く作業と一致した関係にすることである。

4年間のはじめての世界平和と4つのサイバンク・プレートの磁気的な対応

サイバンクは、4つのプレートで構成され、それぞれのプレートは、惑星地球の極から極までの電磁場にまたがっている。それぞれのサイ・プレートは、赤道で二つの部分に分けられており、2つの磁極のどちらか1つと結びつく1つのツオルキン・グリッド（ドリームス・ペル・キットにある「調波インデックス」と同じ）で構成されている。

グリニッジの東経約30度にあたるサイ・ゼロの経度からはじまるそれぞれのサイ・プレートは、90度の幅を持つ（ $90 \times 4 = 360$ 度）。それぞれのサイ・プレートのそれぞれ半分は、磁気的な季節との対応がある。倫理プロジェクトの4年間のそれぞれの年に、それぞれ両極のプレートが開かれる。

第1年、サイ・プレート1、北の春、南の秋

第2年、サイ・プレート2、北の夏、南の冬

第3年、サイ・プレート3、北の秋、南の春

第4年、サイ・プレート4、北の冬、南の夏

4年間にわたって、この4つのプレートごとの4つの季節の極性は、銀河時間の色の定数の反対の関係に応じて「目に見えない存在状態の磁気を反転させる」に一致する。

青－赤、黄色－白、赤－青、白－黄色。

一連の色の中で、二つの色の1番目は、北半球の磁気の前半年をコード化し、2番目は南半球の磁気の後半年をコード化する。

※注：テレクトノンの7年のお告げで、「失われた世代のお告げ」の運命キンの色、すなわち<7.15>の時点で頭頂(クラウン)に来る運命キンの色は、常にその年に対して反対色であることに注意する。たとえば、「青い自己存在の嵐」の年の失われた世代のお告げは、「赤い月の地球」となる。

以下に示すそれぞれ半年ずつの流れのうち、丸かっこ () で囲んである部分は、「年のお告げ」(前半の半年)か「失われた世代のお告げ」(後半の半年)のどちらかの色と紋章である。それぞれの色の組は、4年間のはじめての世界平和の、目に見えない磁気の北半球と南半球のそれぞれの半年の色を示すものである(※訳注：併せて付録図版4. 「年、サイ・プレート、季節と色の磁気的な対応」を参照)

年、サイ・プレート、季節と色の磁気的な対応：

◆第1年、青い自己存在の嵐、サイ・プレート1、アフリカ・ユーラシア・プレート

前半の半年：北半球の磁気が青い春を発信する(青い嵐)

後半の半年：南半球の磁気が赤い秋を発信する(赤い地球)

◆第2年、黄色い倍音の種、サイ・プレート2、太平洋プレート

前半の半年：北半球の磁気が黄色い夏を発信する(黄色い種)

後半の半年：南半球の磁気が白い冬を発信する(白い鏡)

はじめての世界平和の前半の2年間、アルファ位相が生態地域的な変換テンプレートを整える作業を完了させ、12：60の周波数の極性がなくなり、消滅する。13：20が集合的な人類の心を確立し、普遍的なテレパシーの生物圏的な秩序へと解き放つ。

◆第3年、赤い律動の月、サイ・プレート3、アメリカン・プレート

前半の半年：北半球の磁気が赤い秋を発信する(赤い月)

後半の半年：南半球の磁気が青い春を発信する(青い嵐)

◆第4年、白い共振の魔法使い、サイ・プレート4、大西洋プレート

前半の半年：北半球の磁気が白い冬を発信する(白い魔法使い)

後半の半年：南半球の磁気が黄色い夏を発信する(黄色い太陽)

はじめての世界平和の後半の2年間、オメガ位相が生物圏の復旧テンプレートを整える作業を完了させる。

13：20の人類の磁気再極性化が「惑星の電磁気的な両極の安定化」となって実現する。科学実験が終了すると、はじめての世界平和は「生物圏から精神圏への移行」の普遍的な平和として確立される。サイバンの出現は、「天の栄光」「地上の天国」の実現として体験される

磁気的な再教育のプロセス全般は、「はじめての生物圏の権利の惑星集会の決議」で規定された社会の再組織化によって実行に移される。これらの決議が、あらゆる人類のあいだでの平和の普遍的な公式として、「はじめての世界平和」を確立する。前半の2年間の産

業変換に引き続くこの社会の再組織化は、自然の「歌詞」と地磁気の力のポイントに沿った「人類種の地磁気的な再配列」という観点で、次第に公式化されるものになる。これは、電磁場と重力場における既存の12：60周波数の混乱を自然に安定させる。

あなたはこれで全体システムの時間場を開発する第2ステップを完了した。

サイ時間単位は、毎日のキンとは異なる：サイバンクを辿る

倫理プロジェクトの目的に伴い、260単位のツオルキン・グリッドは、暦として読むのではなく、260サイ時間単位によって成り立つ時間情報内在テンプレートとしてとらえることが大切になる。サイ時間単位は、毎日のキンとは異なる。ひとつのサイ時間単位は1キンに等しく、キンの多次元的な応用のすべてにおけるそのキンの可能性に一致した情報を持つサイバンク単位とみなされうる。

サイバンク・プレートを活性化するテレパシー訓練の中で、テレクトノンのプレイングボードと、ツオルキン・グリッドの調波インデックスの両方が、その他の暦機能とは独立した形で、サイバンクを活性化させる手段として使われる。

サイバンクは、2080のサイ時間単位（ $260 \times 4 \text{プレート} \times 2 \text{半球} = 2080 \text{のサイ時間単位}$ ）で構成されている（※訳注：付録図版1. 「サイバンク・マトリクス」と、図版4. の右下の図を参照）。

4つの塔と16の立方体の位置が、サイバンクを活性化するのに使われ、北半球と南半球のチームが同時に1年につき、ひとつのサイ・プレート、520（ 260×2 ）の両半球を活性化する（ひと月につき $16 + 4 = 20$ 、 $20 \times 13 \text{の月} = 260$ 、 $260 \times 2 \text{半球} = 520$ 、1年につき両半球でひとつのサイ・プレート）。

4つのサイ・プレートの中では、それぞれ520（ 260×2 ）のサイ時間単位があるので、総計2080のサイ時間単位がある。この実験では、1年につき520（ 260×2 ）の単位が活性化される。

この訓練の専門的な面には、サイバंक・マトリクス——4つの極性の組を持つ8つの260単位のツォルキン・テンプレート——の知識を含む。半年ごとのテレパシー磁極活性化の訓練には、半球ごと、1年ごとに、260あるサイ時間単位のマトリクスのうち、208の通常単位と52の銀河の活性化単位を含んでいる。

テレクトノンの毎日のクノロメトリーとシンクロメトリーを統合する際に、この実践は、テレクトノンのプレイングボードに応じて、次のような方法で実行に移される（※訳注：付録図版4. の左下の図を併せて参照）。

208単位（×2、北半球と南半球のチームによって同時に行なわれる）は、16の立方体の位置の活性化を通して、年ごとに集積される（ $16 \times 13 = 208$ ）、あるいは416（ 208×2 ）の、1年間に活性化されるサイ時間単位。

52のGAP（Galactic Activation Portal／銀河の活性化の正門）単位（×2、北半球と南半球のチームによって同時に行なわれる）は、4つの塔の位置の活性化を通して、年ごとに集積される（ $4 \times 13 = 52$ ）、あるいは104（ 52×2 ）の、1年間のサイ時間GAP単位。

GAPの塔の1日は、地上歩行の前半の2日間もチャージする

GAPの塔の6日は、地上歩行の後半の2日間もチャージする

GAPの塔の23日は、天上歩行の前半の2日間もチャージする

GAPの塔の28日は、天上歩行の後半の2日間もチャージする

「立方体の旅」は7日から22日まで、4つのGAPの日とそのテレパシー的なチャージ、および地上歩行（※訳注：テレクトノンで毎月2日から5日までの4日間のこと）と天上歩行（※訳注：同様に、毎月24日から27日までの4日間のこと）の8日間を活性化するので、月の28日すべては、両極の磁氣的なテレパシー訓練のために、活性化される。

1年につき1つのサイ・プレートという形で、サイバंकを開くにあたっては、「見えない存在状態の磁気を反転させる」と同じルールが適用される。すなわち、半年間の位相のあいだに、それぞれ半分のサイ・プレートが活性化し、残りの半分が受容的な状態に置かれている。これが意味することは、プレイヤー（参加者）は、「見えない存在状態の磁気を反転させる」に一致した形で、その発信者・受信者の役割を強調することだ。

**磁気の月1日～共振の月14日、北のサイ・プレートが発信、南のサイ・プレートが受信
共振の月15日～宇宙の月28日、南のサイ・プレートが発信、北のサイ・プレートが受信**

サイバंक・プレートの実践は、地球の中心からの磁気をテレパシー的に広げて、極から極へとサイバंकを活性化しながら、ある種の放射状磁気を地球の両極から噴出させるといった巧みな操作を必要とする。

前半の半年は、北極プレートがチャージされる。後半の半年は南極プレートがチャージされる。サイバークは、生物圏の上方2,000~11,000マイル（3,000~18,000km）にある二つの放射帯のあいだに浮かび、脈動している状態として視覚化される。生物量定数（生物量の一定不変性）を制御する73の年間倍音色彩に従うすべての参加者は、磁気イメージを発信するか受信するかで、みずからの身体と惑星ホロンの中心を行ったり来たりする様子に注意を向けてこの操作を行なってもよいだろう。

これで、立方体を転送し、時間の塔を活性化する第3ステップは完了する。

テレトノン・プレイングボードの位置とサイバンのあいだの 塔と立方体の対応

「極をとりまく虹の橋」のテレパシー的な噴出は、260単位のサイ時間マトリクスと対応した形で塔と立方体の中にコード化されている。このマトリクスの形を与える力は、GAPコードの「マヤの機織り」(*)としても知られる二重三つ組形態の中にある。

※訳注：『ドリームスベル』の調波インデックスで「13の月の機織り」として知られるパターンと同じもの。付録図版3、「ツオルキン・グリッド」で黒く塗られ反転している部分。GAP（銀河の活性化の正門）単位が52個（音程の合計が28になる「神秘の4つ組」×13）集まったものを指し、その音程の合計は364になる。

どの年でも、52のGAPの日（マヤの機織り、二重三つ組配列）は、神秘の4つ組の13の組に分割される。GAPの神秘の4つ組コードは、260のサイ時間単位のテンプレート全体のマトリクスを広げるにあたっての鍵となる。ツオルキン・グリッド上で、それぞれの神秘の4つ組は、13の月の流れのそれぞれにおいて塔の日との関係で内側に向かって放射状に動く。

13の月のそれぞれは、ひとつの神秘の4つ組の4つの塔の位置でコード化される。それぞれ対になった正反対の位置にある塔の2つ組で、音程の合計は常に14であり、それぞれの4つ組の4つの音程すべての合計は常に28である。また、2つ組の太陽の紋章のコード番号の合計は常に21であり、2つ組になったキン番号の合計は261、完全な4つ組の合計は522である。

■神秘の4つ組とテレクトノンの塔の位置の対応■

塔の日1日

(塔の日28日と2つ組になる)

1の月 キン 1 : 1竜
 2の月 キン 22 : 9風
 3の月 キン 43 : 4夜
 4の月 キン 50 : 11犬
 5の月 キン 64 : 12種
 6の月 キン 69 : 4月
 7の月 キン 85 : 7蛇
 8の月 キン 88 : 10星

塔の日6日

(塔の日23日と2つ組になる)

1の月 キン 20 : 7太陽
 2の月 キン 39 : 13嵐
 3の月 キン 58 : 6鏡
 4の月 キン 51 : 12猿
 5の月 キン 77 : 12地球
 6の月 キン 72 : 7人
 7の月 キン 96 : 5戦士
 8の月 キン 93 : 2空歩く

者

い

者

9の月 キン106 : 2世界の橋渡し
 10の月 キン107 : 3手

 11の月 キン108 : 4星

 12の月 キン109 : 5月
 13の月 キン110 : 6犬

9の月 キン115 : 11鷲
 10の月 キン114 : 10魔法使

 11の月 キン113 : 9空歩く

 12の月 キン112 : 8人
 13の月 キン111 : 7猿

塔の日23日

(塔の日6日と2つ組になる)

1の月 キン241 : 7竜
 2の月 キン222 : 1風
 3の月 キン203 : 8夜
 4の月 キン210 : 2犬
 5の月 キン184 : 2種
 6の月 キン189 : 7月
 7の月 キン165 : 9蛇
 8の月 キン168 : 12星

塔の日28日

(塔の日1日と2つ組になる)

1の月 キン260 : 13太陽
 2の月 キン239 : 5嵐
 3の月 キン218 : 10鏡
 4の月 キン211 : 3猿
 5の月 キン197 : 2地球
 6の月 キン192 : 10人
 7の月 キン176 : 7戦士
 8の月 キン173 : 4空歩く

者

い

者

9の月 キン146 : 3世界の橋渡し
 10の月 キン147 : 4手

 11の月 キン148 : 5星

 12の月 キン149 : 6月
 13の月 キン150 : 7犬

9の月 キン155 : 12鷲
 10の月 キン154 : 11魔法使

 11の月 キン153 : 10空歩く

 12の月 キン152 : 9人
 13の月 キン151 : 8猿

■塔の日のテレパシー視覚化のための特別なインストラクション■

それぞれの月の4つの塔の位置のときには、マヤの機織りの交差パターンで、地球の極から極と、それ自体を確立する磁極のそれぞれから、テレパシー的な放出（放電、ディスチャージ）がなされている様子を視覚化する。

それぞれの月で、28日、4番目の塔の位置は、常にその月の神秘の4つ組の音程28を完了することに注意する。13の月、それぞれ28日、合計364日。13の神秘の4つ組、それぞれ音程28、合計音程364。年ごとにひとつの完全なマヤの機織りが52(×2)の塔の位置と、364(×2)の音程で織られる。

マヤの機織りを、光体、すなわち極をとりまく虹の橋の背後にある両極(52×2)を創り出すテレパシー的な電磁気の織物、ツオルキン・グリッドおよびサイバンクの4つのプレートそれぞれで表示されるものとして視覚化する。4年間、4つの織物は、極をとりまく虹の橋のための破壊不可能な基礎となる。

■16の立方体の位置と魔法使いマーリンの塔への208段■

マヤの機織りの52のGAPの日を別にして、ひとつのサイバンク・プレートには208(×2)のサイ時間単位がある。これらの単位は、1年で13の月、また月ごとに16ある立方体の旅の日の総計である(16の立方体の位置×13の月=208段)。

これら208のサイ時間単位は、伝説的な大魔法使いマーリンの塔へと導く208段の階段に対応する。208キンはまた、ドリームスペルの旅程盤(ジャーニーボード)での「緑の魅惑の城」の入り口に先行するキンの数であることにも注意する。毎年、マヤの機織りを織り込むことに加えて、マーリンの塔への208段を昇る。4年間で、4つの208(×2)段の螺旋階段をそれぞれの年に昇って、魔法使いの魅惑の塔へとたどり着く。4年間が終了すると、その塔に最終的に入ることになり、極をとりまく虹の橋が存在するようになる。

ひとたびマヤの機織りが、塔の日の1日と6日のあいだに確立されると、そのとき戦士の立方体の旅がやってくる。ひと月につき16日間(毎月7日から22日まで)、テレパシー的な磁気の視覚化が実際に起こる。どちらの半球で、どちらの半年かによって、これら16日間のそれぞれの日に、あなたは地球の中心において目に見えない磁気の反転のイメージを送信するか受信するかのどちらかになる。

それぞれの年にサイ時間単位を迎えるために、ツオルキン・グリッドを使おう。208段の月ごとの流れは、以下の16のサイ時間単位の連続する13の組に対応する。これらの流れの中で、塔の位置に当てはまるGAPの日が省かれていることに注意する。

1の月	2風	～ 4地球	(キン 2～ 17)
2の月	5鏡	～ 9驚	(キン 18～ 35)
3の月	10戦士	～ 3驚	(キン 36～ 55)
4の月	4戦士	～10驚	(キン 56～ 75)
5の月	11戦士	～ 4驚	(キン 76～ 95)
6の月	6地球	～ 5風	(キン 96～122)
7の月	6夜	～ 8鏡	(キン123～138)

**13犬、キン130＝共振の月14日、極性を切り換える
1猿、キン131＝共振の月15日**

8の月	9嵐	～ 8種	(キン139～164)
9の月	10世界の橋渡し	～ 3蛇	(キン166～185)
10の月	4世界の橋渡し	～10蛇	(キン186～205)
11の月	11世界の橋渡し	～ 4蛇	(キン206～225)
12の月	5世界の橋渡し	～ 9夜	(キン226～243)
13の月	10種	～12嵐	(キン244～259)

マヤの機織りが織られる塔の4つ組のことや、毎年、戦士が塔に辿り着くために昇る208段の階段で、第4ステップは完了する。そして、次の第5ステップは、宇宙電気の潤滑剤を応用することである。

7つの放射状プラズマ、7つの封印、預言の7年と心のヘプタゴ ノン

倫理プロジェクトは、預言の7年、すなわち1993年から2000年の7年間をしるす「預言の7つの封印(紋章)」の最後の4つを開く時間的な流れを裏付けるものである。このプロジェクトが4番目の封印と預言の第4年(1996年)が開かれるときに正確に始まるという事実は、それに先立つ3つの封印と預言の3年間を開いた集積力に基づいている。

預言、テレトノンによれば、預言の7つの封印を成功裡に開き、預言の7年を完了させることは、心のヘプタゴノンの創造を生じるという。決して逸脱行為を行なわない自然の法則により、心のヘプタゴノンは、「法則の立方体」として知られる根源的で普遍的な創造の宇宙的な立方体、その超意識的な進化の完成を説明する用語となっている。

起源の法則の立方体は、普遍的なテレパシーの完成による根源的な知識の統一を説明する。心のヘプタゴノンとして起源の純粋性を取り戻す法則の立方体の知識は、普遍的・惑星テレパシー的な無我の境地、すなわち生物圏の啓示である生物圏から精神圏への移行を完了させる。この進化的な実現は、宇宙的な知の到来の段階を設定する。レディオソニックス、すなわちこの宇宙的な知の実践は、すべての生命と物が相互の知性で浸透し合う、来たるべき「精神生命」の時代を特徴づける。

精神圏にひそむ意識の形態構造である心のヘプタゴノンは、自然の法則の進化的な反射である。究極的にこの自然の法則は、一なるものの法則であり、聖なる創造の源泉にとってはどこにも二義的なものはない。ひとつの自然法則の働きに関する知識は、「宇宙科学」という用語で総括される。

宇宙科学で描写される宇宙は、多次的に包括的であり、いくつかのシンプルでありながら包括的な要素と原理によって特徴づけられる、全体システム的なリアリティの秩序である。この科学における用語は、次元間の統一としての宇宙の法則を理解するための専門用語であり、それは三次元の物理学の視点に固定されている12:60の科学用語とは異なる。宇宙科学は、私たちが自分たちの三次元科学の基本法則として知覚するものは、よりシンプルでより包括的な原理の反映か、もしくは現実というものを単一次元で見る見方に習慣化したことでもたらされた単なる妄想のどちらかであることを示す。

宇宙科学によって描写される包括的で多次的な宇宙の秩序は、宇宙電気の6つのタイプに始まる。宇宙科学の多次的な視点から見ると、電気は、産出(発生)的な結合力を持つ潤滑剤の多次的な型(タイプ)である。宇宙電気の6つのタイプは、それぞれ互いに切り離すことはできずに、「部分子」(parton)と呼ばれる根源立方体ないしは創造の原子の形をとる。立方体の法則を創り出し、その進化的な完了を心のヘプタゴノンにおいて受け取るのが、この根源立方体部分子なのだ。

ちょうど原子が組み合わさって分子を構成するように、この6つの根源的な宇宙電気のタイプのそれぞれの組み合わせから、力の電力線(electrical lines)の11タイプが導き出される。これらの11の電力線が、ひとつの全体性の中に宇宙のすべての次元秩序をまとめあげるリアリティの配列の原因となっている。

力の電力線のこれら11のタイプの組み合わせから、7つの放射状プラズマが導き出される。これらの7つの放射状プラズマは、超新星、クェイサー、そして銀河の核そのものから発生する銀河ビームのエーテル流で運ばれ、二つの磁極のうちのひとつを通して恒星ないしは惑星構造に引きつけられ、そこに入り込む。アトラクター（引きつけるもの）であるひとつの極から、放射状プラズマは、惑星の核まで移動し、そこに保存される。生命の生物変異的な連続（帰結）を司る13：20の計時周波数と一致した形で、この放射状プラズマは、惑星の生物量の発生進化的な開示を方向づける。

※訳注：（以下、『広辞苑』から抜粋）

プラズマ【plasma】(回)血漿（けっしょう）。プラズマ。(用)自由に運動する正・負の荷電粒子が共存して電氣的に中性になっている状態。放電中の放電管内の気体、電離層、恒星の外気などはこの状態にあると考えられる。

パカル・ヴォタンの投影力により、地球の中心、結晶質の「天王星の石の聖櫃」に保存されていた7つの放射状プラズマは、テレパシー的に預言の7つの封印へと姿を変えた。7つの放射状プラズマは、預言の7つの封印として、生物圏から精神圏への移行として知られる主要な生物変異の連続の頂点に、正確に解き放たれるように意図されていた。預言の7つの封印のそれぞれは、7つの放射状プラズマのそれぞれに対応する。

7つの封印を、預言の7年のそれぞれにひとつずつ開くことを通して、7つの放射状プラズマを定められた時に解き放つ目的は、生物圏から精神圏への移行を成功裡に完了させるといふ結末を生じる、テレパシー的に生物圏の変容へと向かう生物化学的な燃焼を巧みに変形させることにある。

放射状プラズマは、「テレパシー的に活性化した流体」と定義することができる。7年、7つの封印、7つのプラズマ——これらすべてが共になって、預言の1年から7年に向かって一連の小さくなる時間の輪が作られ、精神的な進化（外向／evolution）とプラズマの退縮（内向／involution）の同時的なインデックス（指標）を創り出す。立方体は、それが法則の立方体であれ、根源立方体部分分子であれ、それもまたその本質的な形の構造における地球を表わす。

放射状プラズマの次元間の性質、および7つの封印により表わされる保存された時間を解き放つ力により、この封印をただじっと見つめるだけでも、この封印により構成されている放射状プラズマのタイプのテレパシー的な開示と解放が誘発される。

この封印のテレパシー的な活性化を通して、放射状プラズマは地球の核から解き放たれる。生物圏のテレパシー場の中で、これは生物地球化学的な燃焼における放射状プラズマの活発化を生じ、生物圏から精神圏への移行の完了を早める。7つの放射状プラズマの解放のプロセスと機能を理解すれば、その理解力が4年間の「存在状態の磁気を反転させる」と、それと同時平行的に行なわれるサイバンの4つの2重季節プレートでの活性化の潤滑剤となる。

■7つの封印、7つの放射状プラズマ、そしてその7つの年ごとの機能■

- ダリ (DALI) 勝利は目指す、1993-1994=ダリが解き放たれ、熱光能力が確立される。
- セリ (SELI) 勝利は流れる、1994-1995=セリが解き放たれ、熱光能力が拡張される。
- ガンマ (GAMMA) 勝利は鎮める、1995-1996=ガンマが解き放たれ、熱光能力が拡張され、「攻撃部隊」を獲得する。
- カリ (KALI) 勝利は確立する、1996-1997=カリが解き放たれ、凝集膨張の触媒形成能力が獲得される。
- アルファ (ALPHA) 勝利は解き放つ、1997-1998=アルファが解き放たれ、二重拡張電子が活性化し、法則の立方体は普遍的なテレパシー体験としてプラズマ的に解き放たれる。
- リミ (LIMI) 勝利は清める、1998-1999=リミが解き放たれ、心的電子が発生し、銀河の心がテレパシー的な地球の心に電子発生力で権限を与える。
- シリオ (SILIO) 勝利は放出する、1999-2000=シリオが解き放たれ、心的電子・中性子が発生し、心のヘプタゴノンの創造を完了し、極をとりまく虹の橋が触発される。精神圏としての地球にくるまれているプラズマ的な創造が人のテレパシー場によってチャージされる。精神圏航行者（人）は、精神生命の時代、ホモ・サピエンスからホモ・ヌースフェリカス（精神圏人）への移行を用意する。

宇宙電気の本質を理解することで、第5ステップが完了する。放射状プラズマの7つのタイプの流体の質に関する、段階的なテレパシーの応用は次の第6ステップである。

宇宙光線の植え付け：応用の諸段階

定まった重大な時に開かれた7つの封印と、テレパシー的に解放される7つの放射状プラズマは、「宇宙光線の植え付け」としても知られる。宇宙光線の植え付けは、預言の7年のあいだに宇宙電気の6つのタイプの宇宙論的な相互作用に応じた、根源立方体部分子の再創造に対応した2つの段階で起こる。根源立方体部分子の再創造は、心のヘプタゴノンの活性化にひそむ。

第1段階：放射状プラズマの解放を誘発する

最初の3つの封印、最初の3つの放射状プラズマ、最初の預言の3年(1993-1996)。熱の第1年は、第2年のプラズマの流れの光を誘発する。「攻撃部隊」として拡張された(光-熱の相互作用)第3年は、根源立方体部分子の左側の2つベクトル点を完了する基礎を確立する。これは次のような方法による。(※訳注：付録図版8.「宇宙光線の植え付けと心のヘプタゴノン」を参照)

テレクトノン(地球精神の通話管)の啓示が、預言の7つの封印の単なる視覚的な活性化を通して、放射状プラズマの同時的な解放を触発する。7つの封印はすべてが共になって、ひとつのヤントラの視覚形態での「心のヘプタゴノン」を作り出す。封印のどれかひとつ、あるいはすべてをじっくりと見つめることで得られる神経視覚情報は、ひとつあるいはいくつかの放射状プラズマとして、その機能に応じて生物圏へとテレパシー的にフィードバックされる。生物圏内で、放射状プラズマは、人類の集合体の総計を構成しているバイオプラズマ(原生質)と相互作用を行なう。社会的に、このテレパシー的に誘発されたプラズマの相互作用は、全人類的な「13の月の暦に変える平和の運動」として現われる。

毎日、テレクトノンを実践し、7つの封印を視覚的に刻印することで、この運動の構成員は、さらに放射状プラズマの流体をテレパシー的に活性化することにも関わり、その多くを生物圏の場へと解き放つ。このプロセスを規則正しく追求することで、生物圏から精神圏への移行の開始を告げる、生物地球化学的な燃焼の生物調和的な活発化がもたらされる。「はじめての生物圏の権利の惑星集会」と、それに引き続く「はじめての世界平和」の宣言の公式化により、十分な臨界量(※訳注：必要十分な人員、人数のこと)が獲得される。そうすると、倫理プロジェクト自体の実践およびその存続期間中、放射状プラズマの解放が意識され、そこに焦点化できるようになる。

第2段階：磁気を反転させ、法則の立方体を構築する

最後の4つの封印、最後の4つの放射状プラズマ、最後の預言の4年は、「はじめての世界

平和」と「倫理プロジェクト」の1996-2000年と同等である。

第4年は、根源立方体部分分子の右側の2つのベクトル点を確立する。これは、中心の立方体軸のベクトル点の基礎で、第5年の二重拡張電子の活性化を引き起こす。最後の2年は、心的電子と心的電子・中性子の発生を通して、根源立方体部分分子の活性化を完了させる。これが、「心のヘプタゴノン」の創造を完了させ、それにより焦点化した人類の放射状プラズマのテレパシー的な放出がなされ、極をとりまく虹の橋を創り、生物圏から精神圏への移行を成し遂げる。

下位段階1：「第1の存在状態の磁気を反転させる」、第4年、第4の封印、第4の放射状プラズマ、カリ。根源立方体部分分子の右側の2つのベクトル点が同時に確立され、触媒作用を持つ形成的な凝集膨張〔(熱光) (光熱)〕能力を生じ、自律的に放射状プラズマを発生できるようになる。喚起された人のバイオプラズマを通して、ウェイブスペルに乗る産出(発生)的な力が獲得され、それが銀河知性の流入のしるしとなる。預言の第4の封印によって解放されたカリは、集合的な心とテレパシー的に相互作用する。「凝集膨張」的な精神の力は、テレパシー的な精神圏の母体の基礎を確立する。集合的な心は、聖なる源泉、テレクトノンに浸透する。「カリ」という音は、アルクトウルの触媒作用的な勝利を表わす。

下位段階2：「第2の存在状態の磁気を反転させる」、第5年、第5の封印、第5の放射状プラズマ、アルファ。第5の封印を開くアルファの力は、根源立方体部分分子の中心軸のベクトル基点を形づくる二重拡張電子を解放する。この活性化は、いまや地球に根づいているアルクトウルス統制の勝利の信号を発生する。活性化され、臨界量に達した人のバイオプラズマを通して、放射状プラズマは、集合的な心に浸透し、またそこから解放され、取り消しできない形で生物地球化学的な燃焼点を、機会と認識のポジティブな源泉へと変形させる。

集合的な人の意識は、量子的な次元転移を体験し、集合的な心、精神、意志の状況へと向かう。これは、「立方体を爆発させる」と呼ばれ、そこでは立方体が触媒作用を通して、二次元的な平面から解放され三次元的な形になる「心のヘプタゴノン」を生み出す際の決定的な段階である。これは、「物質主義」として知られる心の状態の原因となっている思考形態からの解放を表わす。

下位段階3：「第3の存在状態の磁気を反転させる」、第6年、第6の封印、第6の放射状プラズマ、リミ。放射状プラズマ、リミの相互作用力を通して、心的電子が発生する。心的電子の活性化と発生が、ジオマンシー的な「歌詞」に沿った人のバイオプラズマ総量を両極軸で再び整理させ、それと一致した精神磁気安定化のプロセスをはじめめる。「歌詞」とは、三次元と四次元の対応に一致した流れにおける、人のホロンと惑星ホロンの調律を指している。

歌詞に沿って再び磁気化された人の意識は、高められた神経細胞の自律性のレベルで、シナジー的に再編成される。人の社会形態のテレパシー的な再結合が、過ちあるいは罪からの解放の集合的な体験となる。普遍的な精神性の感覚や認識が強まるにしたがって、人類は、その他の電子的なものと同調のとれた心的電子を生じる能力を地球の心に授ける「銀河の心」を体験する。これは、有毒廃棄物や放射能廃棄物を純化し、再構築するテレパシー的な能力として立ち現われる。

下位段階4：「第4の存在状態の磁気を反転させる」、第7年、第7の封印、第7の放射状プラズマ、シリオ。放射状プラズマ、シリオからの心的電子・中性子の発生は、人のホロンと惑星ホロンのそれぞれ対応する極軸を結びつける。この極性の安定化は、心的電子・中性子の自由な極放電が人と惑星の双方から噴出される段階で、生物地球化学的な燃焼を等しくし、またそれを完了させる。これらの極放電がテレパシー的に極光電磁場を活性化し、「心のヘプタゴノン」の完了をしるす。

放射状プラズマの「心のヘプタゴノン」は、根源立方体部分分子をも再創造し、生物圏から精神圏への移行を成就する。単一の思考形態——極をとりまく虹の橋——によってテレパシー的に結びつけられた人類集合体のバイオプラズマ的な整列を通して、サイバークが出現するべく誘発される。根源的な銀河の創造力は、地球を精神圏としてとりまくようになる。13年間（2000-2013年）を通して、精神生命の時代への開始へと移行し、テレパシー的に活性化し、細胞的に調和のとれた人類は、精神圏の航行者へと変容するようになる。

これが第6ステップ、「宇宙光線の植え付け」を完了させ、次の第7ステップ、すなわち現在の人類の種のあいだでの、「目に見えない磁気」の至高の達成、そのすべてを成就する天の栄光への準備が整う。

極をとりまく虹の橋を噴出させる、 サイバークを出現させる、天の栄光をもたらす

世界平和と呼ばれる科学実験のクライマックスは、預言の7年の最終日にあたる「時間をはずした日」、すなわちAD2000年の「白い共振の鏡」の日に起こるように計画されている。増大した極磁気は、この段階ですでに大きな北極光、南極光のスペクタルとして知られているものを発生させていることだろう。預言の第7年、スペクトルの月4日、「自己存在の地球」の日に、キチニ・アハウの既存の8つの惑星が太陽の側に整列し、地球だけがその反対側に来て、この惑星直列の効力を受け取る。この惑星直列現象から引き起こされる磁気の混乱をテレパシー的に安定させる人類の能力が、磁気の再安定化においてのそれまでの4年間の実践をテストするものとなるだろう。

集合的、心的な試みにおけるこの訓練の成功が、人類の大きな任務の最終的な準備となる。その任務とは、「バイオテレパシー的に極をとりまく虹の橋を噴出させる」ことである。「存在状態の磁気を反転させる」ことを4年間にわたって実践してきたことで、人類はその集合テレパシー的な能力を奮い立たせて、スペクトルの放電を生じさせる。この重量のないスペクトル的にきらめく「虹の橋」は、惑星の極光一人の放射状プラズマの融合によって構成されており、それ以後、この惑星の「地質学的な」特徴のひとつとなるだろう。

360度の極をとりまく輪は、実際には5つの輪の総計となる。それは、5つの地球家族のそれぞれが第5の力の和音の「音程」を響かせるからである。集合的な調和と視覚化の訓練は、二重の織物プログラムを虹の橋の構造に投影するようになる。この織物（マヤの機織り）は、実際にこの橋を一定のままに保って地球を安定させるようになり、事実上、地球は動かない虹の輪の中で回転するようになる。よろめき（揺らめき）が地球から取り払われるのである。太陽のまわりの地球の公転は、完璧な365日で安定するだろう。人類の意識は、みずからの評価を取り消しできない形に変換する。人類と、それに見合った聖なる約束の成就のあいだの協定が、精神生命の時代へと完全に入り込むことを保障する。

この出来事は、すべての者にとって「天の栄光」として目撃され、体験される。その到来は、サイバークの出現の先駆けとなる。これ以降、生物圏内のあらゆる個人は、知と啓示の完全な自律性を体験すると共に、同時に生物圏領域とテレパシー的にひとつになる。「新しい天と新しい地」の創造が実現するようになる。聖なる計画は、多くの道に現われ、それでいてそのあらゆる道は、同じ「目に見えない源泉」から引き出され、ひとつのゴールに向かう。

これが倫理プロジェクトの荘厳な目的を達成するための、第7番目で最終のステップを完了させ、人類は次の進化段階の突破口を開くべく解放される。

毎日のテレパシー瞑想および視覚化の インストラクションの総括と、道具の一 覧

倫理プロジェクトは、科学実験であり、一日のはじめに精神的な実践として行なわれる。この実験にはさまざまな段階、レベル、詳細があるために、毎日私たちがこれを単純かつ簡易に行なえるように、ここで要約事項を述べる。

「13の月の暦」の中であなたがどこにいるかを確定する。73の倍音色彩のどれにあなたがいるのかを見いだす。あなたの身体（人のホロン）と惑星ホロン上で、対応するセンターと地球家族の紋章を結びつける。サポート・ツールとして『ドリームスペル・キット』の中にある「惑星ホロン」と「人のホロン」のダイアグラムを使うとよい。

みずからを確立し、磁気を視覚化する際に、あなたとあなたのチームが年の前半か後半か、またどちらの半球にいるのかを確定する。前半の半年は、北のチームが磁気を発信し、南のチームが磁気を受信する。後半の半年は、南のチームが磁気を発信し、北のチームが磁気を受信する。あなた自身の身体のセンターと惑星ホロンのゾーンを第1ステップで確定したように、それらを通して磁気発信と受信を調整する。視覚化に際しては、磁気色のプログラムを含むことを忘れないようにする。

その他の協力チームの（所在を示す）目標地点をしるした世界地図は、あなたの磁気発信・受信を焦点化するのに役立つ。

あなたのテレトノン・ボードを設置しよう。いまがどの月かに応じて、そしてボード上の亀の位置に応じて、どのサイバンク・プレートのどのサイ時間単位が活性化されているのかを確定する。あなたのチームがどちらの半球に位置しているかによって、そしてどの半年にあなたがいるかに応じて、あなたはテレトノンの月と日付に対応するサイ時間単位を通して磁気を発信、もしくは受信する。共振の月14日までの半年は、北半球のプレートが能動的で、南半球は受動的である。共振の月15日から宇宙の月28日までは、南半球のプレートが能動的で、北半球が受動的である。あなたの視覚化作業とサイ時間単位の活性化ポイントの確認を行ないながら、季節と色を合わせることを忘れないようにする。テレトノン・ボードと共に、サイバンク・マトリクスとツオルキン・グリッドをあなたのガイドとして使う。

放射状プラズマに対応する預言の封印を研究する。どの半年の段階にあなたがいるかに応じて、放射状プラズマの機能とその封印の視覚化を対応させるようにする。

適切な順序で毎日の実践を行なうための指示を得るにあたっては、がまんづよくあること。最も重要なことは、磁気発信あるいは受信というテレパシー活動を通して、この作

業の目的を知ることである。

すべての存在に対して、無条件の愛と許しの精神を持つこと。

倫理プロジェクトが進行するにつれて、「はじめての世界平和」の進行と同期のとれたより多くの啓示や指示が生じる。PAN-PCCネットワークを通した「目に見えない大学」は、すべての集団とその集団の所在を知らせ合い、その自然な増殖の進路において集団に関わる情報を増す。

道具の一覧：

1. 『13の月の暦』、「毎日の、年間の惑星奉仕のウェイブスペルの形」
2. 『ドリームスペル』、「惑星ホロン」と「人のホロン」のチャート
3. 『テレクトノン』の「プレイングボード」
4. 『パカル・ヴォタンの呼びかけ：時間は四次元である』
5. 『アース・アセンディング：全体システムを司る法則についての図解論文』
6. 『マヤン・ファクター：科学技術を超えた道』

※訳注／上記の「道具」について：

1. 『13の月の暦』は、PCC東京（TEL. 03-5742-2904/11:00AM-6:00PM, FAX. 03-5742-2902）で現在、「壁掛け型」カレンダーと付属のハンドブックを配布中（一部1,300円／13部以上は一部につき1,000円、送料別）。直接、お問い合わせください。

2. 『ドリームスペル』、および3. 『テレクトノン』については、現在、英語版を輸入しての説明会をPAN JAPANその他の個人、グループで企画中。詳細を知りたい方は、説明会の日程や内容等が決まり次第、随時、PAN JAPANの通信紙に掲載される予定なので、同紙をご購読ください（年間購読費2,100円）。

4. ~6. は、一般書籍として米国の書店などで手に入れることができますが、日本では未訳です。

倫理プロジェクトに関する注 釈

世界平和と呼ばれる科学実験は、「倫理プロジェクト」というコードネームで知られるようになる。日本の「倫理研究所」は、1945年9月3日に丸山敏雄によって創始された。その日は、第二次世界大戦の終了時、すなわち日本が正式に降伏文書に調印した日の翌日にあたる。

日本の正式な降伏と倫理研究所の創設は、1945年8月6日と8月9日、広島と長崎に落とされた原爆と直接深い結びつきを持っていた。広島と長崎という日本の2つの都市に落とされた原子爆弾は、「マンハッタン・プロジェクト」として知られる機密作戦が実を結んだものだった。このプロジェクトの最初の原子爆弾の実験は、1945年7月16日、ニューメキシコ州トリニティサイトで行なわれ、それにより生物圏は核時代に入り込むことになった。

このマンハッタン・プロジェクトの否定的かつ悲惨な効力を反転させるべく、倫理プロジェクトが開発された。倫理の17箇条の標語が、テレクトノンの毎月の「立方体の旅」と「舵取りの塔」に組み込まれ、倫理プロジェクトを実践するすべての人々の普遍的・倫理的なガイドラインをもたらすものとなっている（※訳注：付録図版7. 「倫理の17箇条とテレクトノン」を参照）。

倫理プロジェクトの一般的な性質について、初めて公式的に説明がなされたのは、太陽の月14日～15日、1996年3月20日～21日、ブラジリアの善意の寺院における「はじめての生物圏の権利の惑星集会」でのことだった。そしてその詳細については、惑星の月15日、「太陽の太陽」の日、1996年4月18日、倫理研究所で初めての説明がなされた。

「時間は短く、限られている。一時も一日も無駄にできない。人の文化・伝統は、犯されてはならないものである。レーリヒの平和条約の理想は、すべての人に益するものでなくてはならない。そのテキストは、世界の統一と平和のために必要欠くべからざる結合力をもたらす文化的な誓いだ。人類は、平和の旗の下で強力かつ平和的な統一体である『文化の世界連盟』（＝惑星芸術ネットワーク）となり、ひとつの至高の文化へと向かって前進する。

（『レーリヒ条約と平和の旗』1947年、ニューヨーク、「世界統一への呼びかけ」から）

ボロン・イクの塔で二重に封印される
アルクトゥルス統制の指示を完了する
預言の第3年、白い電気の魔法使い
勝利は鎮める
黄色い太陽の人、キン152

ホゼ・アグエイアス、哲学博士

【図版1. サイバンク・マトリクス】

【図版2. 生物量定数の73の年間倍音色彩に従う】

生物量定数の73の倍音色彩に従い、5日間の連続体において
「人のホロン」と「惑星ホロン」を結びつけることにより、
磁気共振の原理を再び確立する。

地球の共振場モデル

生物量定数の73色彩

人の心と生物圏を同期させるために、預言の第4年の惑星奉仕のウェーブスペルは、生物量定数を維持する73色彩でカラーコード化されている。生物量定数とは、量の不変性や生物多様性の継続性が維持されるという生物圏の法則である。人が生物量定数を維持する手段は、「生物量定数の73色彩」として知られる、全部で73ある完全な5日単位の連続体を通して実行される。太陽銀河年と同様に、それぞれの5日単位の連続体は、赤、白、青、黄色でカラーコード化される。今年が青い年なので、色彩連続体の1番目（最初）と73番目（最後）は、青である。今年の順番は次のとおりである。

青い嵐□ ———夜□	自己発生する豊かさの色彩
黄色い種□ ———星□	開花する芸術の色彩
赤い月□ ———空歩く者□	浄化する預言の色彩
白い魔法使い□ —鏡□	永遠の瞑想の色彩

それぞれの連続体は、通路の地球家族から信号の地球家族まで続く。これは「惑星ホロン」で、それぞれの色彩行程が南極からはじまり、北極に飛んで、南半球の温帯で終わることを意味する。人の心と生物圏が——1年に73回——バイオテレパシー的に調律する際に、これが鍵になる。生物量定数の色彩に従い、あなたの惑星の生物電磁氣的な安定化に参加しよう！

あなたが自分の「人のホロン」の精神物理的なセンターを、「惑星ホロン」の対応する位置と結びつけると、そのときあなたは、世界平和と呼ばれる偉大な科学実験を通して、今あなたが活性化している目に見えない存在状態の磁気で、テレパシー的な対応物を創り出していることになる。あなたが毎日規則的にこの倍音色彩に従うとき、あなたは地球の電磁気と重力の共振場と同調したあなた自身の生物電磁気を再び安定化させている。あなたは自分自身の生物圏細胞を大きな存在状態の磁気と結びつけているのだ。あなたは、生物圏の細胞化を体験している。あなたは、地球とそこにあるものとすべてとひとつになる精神圏の生物変異の帰結として変異しつつある！

【図版3. ツオルキン・グリッド（ツオルキン・テンプレート）】

※訳注：

【銀河の活性化の正門】（Galactic Activation Portals/GAP）：

銀河意識への通路。4つ組と呼ばれる、2つ組になった神秘キンの13組としての52の銀河の通路。13の4つ組の音程の合計は364、あるいは13の月。調波インデックス上のパターンとして、それは「13の月の機織り」として知られている（以上、ドリームスペル・テキストより）。本資料では、「マヤの機織り」と呼ばれる。

【図版4. 年、サイ・プレート、季節と色の磁気的な対応】

【図版5. 位相1「アルファ」：1996-1998年】

【図版6. 位相2「オメガ」：1998-2000年】

【図版7. 倫理の17箇条とテレクトノン】

地球倫理のカリキュラム：「倫理」。 □ すべての人々のあいだで誰もが、生物圏の生物磁気的な規範を再び確立する。 そのためのテレクトノンの「法則の立方体」の中の、 聖なる戦士の旅における正しい行ないのこと。		人生は神の演劇、 その主役は自分自身である 「舵取り」への鍵：時間船2013 今のあなたは「地球」：母体に入る 23日 23	
□ 肉体は精神の象徴、 が師 病気は生活の赤信号 「達成」への鍵： 今のあなたは「手」 立方体7、13日 13	□ 子は親の心を実演する 名優である 「死」への鍵： 今のあなたは「世界の橋渡し」 立方体6、12日 12	□ 夫婦は一对の反射鏡 「性」への鍵： 今のあなたは「蛇」 立方体5、11日 11	□ 人は鏡、万象はわ 「開花」への鍵： 今のあなたは「種」 立方体4、10日 10
□ 明朗は健康の父、 愛和は幸福の母 する 「芸術」への鍵： 今のあなたは「星」 立方体8、14日 14	□ 信ずれば成り、 憂えれば崩れる 「ビジョン」への鍵： 今のあなたは「鷲」 立方体15、21日 21	□ 希望は心の太陽である 「永遠」への鍵： 今のあなたは「魔法使い」 立方体14、20日 20	□ 運命は自らまねき、 境遇は自ら造 「豊かさ」への鍵： 今のあなたは「夜」 立方体3、9日 9
□ 約束を違えれば、 己の幸を捨て他人の福を奪う 「浄化」への鍵： 今のあなたは「月」 立方体9、15日 15	□ 己を尊び人に及ぼす 「知性」への鍵： 今のあなたは「戦士」 立方体16、22日 22	□ 本を忘れず、末を乱さず 「預言」への鍵： 今のあなたは「空歩く者」 立方体13、19日 19	□ 苦難は幸福の門 「精神」への鍵： 今のあなたは「風」 立方体2、8日 8
□ 働きは最上の喜び 日、 機。 「愛」への鍵： 今のあなたは「犬」 立方体10、16日 16	□ 物はこれを生かす人に集まる 「魔術」への鍵： 今のあなたは「猿」 立方体11、17日 17	□ 得るは捨つるにあり 「自由意志」への鍵： 今のあなたは「人」 立方体12、18日 18	□ 今日是最良の 今は無二の好 「記憶」への鍵： 今のあなたは「竜」 立方体1、7日 7
無意識の平面 ボロンティック 宇宙間に伝わる	意識の平面 オシュラフンティック 宇宙間に伝わる	継続的な意識の平面 宇宙間に伝わる	超意識の平面 宇宙間に伝わる

【図版8. 宇宙光線の植え付けと心のヘプタゴノン】

- | | |
|---------------------|---------------------------------|
| 1 勝利は目指す、1993-1994 | |
| 2 勝利は流れる、1994-1995 | 1-3、1993-1996は、13の月の暦に変える平和の運動、 |
| 3 勝利は鎮める、1995-1996 | 生物圏の集会を確立する |
| 4 勝利は確立する、1996-1997 | |
| 5 勝利は解き放つ、1997-1998 | |
| 6 勝利は清める、1998-1999 | 4-7、1996-2000 |
| 7 勝利は放出する、1999-2000 | はじめての世界平和・目に見えない大学、 |
| 生物圏から精神圏への移行が | 生物圏から精神圏への移行 |
| 完了する：「天の栄光」 | |

預言の7年、1993-2000年のあいだに
放射状プラズマの活性化を通して
根源立方体部分子の宇宙電場の中にあり、
またそれを放出する、**心のヘプタゴノン**を示す
倫理プロジェクトの「宇宙光線の植え付け」

倫理プロジェクト

青い自己存在の嵐の年・自己存在の月1日□□ / 1996年10月18日 第2刷発行

著者：ホゼ&ロイディーン・アグエイアス

訳者：高橋 徹

編集・発行：パン・ジャパン（旧名：オペレーション・ビクトリー・ジャパン）

〒141 東京都西五反田4-17-1

TEL. 03-3495-8785

FAX. 03-3495-2472

郵便振替：口座番号 00140-5-726116

●雑誌・書籍・その他のメディアに転載する場合は、上記パン・ジャパンまでお問い合わせください。

図版 2 用

(図・左側)

極性
頭頂
(クラウン)

基本
喉

中核
心
(ハート)

信号
太陽神経叢

通路
根
(ルート)

2 北極

南極から
ジャンプ
してくる

2 3 4 5 1

3 北

チャージを
変容する

4 赤道

中心(心臓)に
持っていく

5 南

クシャン・スウムを
通して出る

1 南極からはじめて、

北極にジャンプする

(図中)

+北極 ←電磁場 ←生命精神場 鉄鋼水晶の核 ←重力場 -南極
30° N 30° S

図版 4 用

サイバंक・ プレート1

北のチーム
208の立方体のキン
52の塔のキン
=1ツオルキン
260単位

南のチーム
208の立方体のキン
52の塔のキン
=1ツオルキン
260単位

第1年
1996~1997年
520サイ単位

サイバंक・ プレート2

北のチーム
208の立方体のキン
52の塔のキン
=1ツオルキン
260単位

南のチーム
208の立方体のキン
52の塔のキン
=1ツオルキン
260単位

第2年
1997~1998年
1040サイ単位

サイバंक・ プレート3

北のチーム
208の立方体のキン
52の塔のキン
=1ツオルキン
260単位

南のチーム
208の立方体のキン
52の塔のキン
=1ツオルキン
260単位

第3年
1998~1999年
1660サイ単位

サイバंक・ プレート4

北のチーム
208の立方体のキン
52の塔のキン
=1ツオルキン
260単位

南のチーム
208の立方体のキン
52の塔のキン
=1ツオルキン
260単位

第4年
1999~2000年
2080サイ単位

北緯90度 南緯90度

1 熱

ダリ (DALI) 第1年
陽極
心のヘプタゴノン
熱の力が目指される

2 熱-光

セリ (SELI) 第2年
陰極
心のヘプタゴノン
光の力が極性化される
第4年、熱-光がカリによって活性化される
凝集-膨張が
1, 2, 3, 4の組み合わせとして獲得される

3 光

ガンマ (GAMMA) 第3年
光-熱が攻撃部隊を獲得する
1, 2, 3の組み合わせ

4 光-熱

カリ (KALI) 第4年
熱-光
光-熱が
放射状プラズマの
凝集-膨張のための
構造的な基礎を確立する
1, 2, 3, 4の組み合わせ
心が源泉を獲得する

5 E E

アルファ (ALPHA) 第5年
陰極
立方体部分子 (Cubic Parton)
二重拡張電子 (Double Extended Electron) が
活性化される (E E)
放射状プラズマが立方体を爆発させ
普遍的なテレパシーを解き放つ
1-5の統一された力

6 M E

リミ (LIMI) 第6年
陽極
立方体部分子 (Cubic Parton)
心的電子 (Mental Electron) が
発生する (M E)
放射状プラズマが精神磁気の極性安定の
はじまりを可能にし、
立方体の外側が完了する (1-6)

7 M E N

シリオ (SILIO) 第7年
核、立方体の内側が完了する
心的電子・中性子が発生する (M E N)
核が安定し、二重極性の放出が
極光場を活性化し
継続的な極をとりまく虹の橋にする

(上部、縦軸の説明部分)

心のヘプタゴノン
極軸
「人のホロン」と地球の軸を
結びつける

(左側、斜め線の説明部分)

立方体部分子の極軸=
「惑星ホロン」と地球の軸を
結びつける

- | | |
|------------------------------|--|
| 1 勝利は目指す、1993-1994 | |
| 2 勝利は流れる、1994-1995 | |
| 3 勝利は鎮める、1995-1996 | 1-3、1993-1996は、13の月の暦に変える平和の運動、
生物圏の集会を確立する |
| 4 勝利は確立する、1996-1997 | |
| 5 勝利は解き放つ、1997-1998 | |
| 6 勝利は清める、1998-1999 | 4-7、1996-2000 |
| 7 勝利は放出する、1999-2000 | はじめての世界平和・目に見えない大学、
生物圏から精神圏への移行 |
| 生物圏から精神圏への移行が
完了する：「天の栄光」 | |

預言の7年、1993-2000年のあいだに
 放射状プラズマの活性化を通して
根源立方体部分子の宇宙電場の中にあり、
 またそれを放出する、心のヘプタゴノンを示す
 倫理プロジェクトの「宇宙光線の植え付け」